

ジュリア

校長 鈴木 隆志

セサミ・ストリートは、1970年代から30年余に渡ってテレビ放映されていた人気番組です。保護者の皆さんの中にも、セサミ・ストリートを見て育ったという方がいらっしゃるでしょう。日本では子供向け英語教育番組として放映されていましたが、2007年に放送終了となりました。本国米国では今も放送が続いています。好奇心旺盛な真っ赤なモンスター「エルモ」や、身長250センチの大きなカナリア「ビッグバード」、魔法の練習に励む妖精の女の子「アビー・カダビー」、クッキー大好きなモンスター「クッキーモンスター」など、おなじみの面々に加えて、昨年4月から新しいキャラクター「ジュリア」が登場しています。ジュリアは、自閉症のある4歳の女の子です。

ジュリア登場企画は、自閉症スペクトラム障害（ASD）の子供がいる家族からの番組への要望がきっかけだったそうです。アメリカ疾病予防管理センターの調査によると、学校に通う子供68人に1人の割合でASDの症状があるとされ、ASD児との関わりは多くの子供たちにとってより身近になっています。そこで、番組では、子供たちへのASD理解促進を目的として、専門家と5年以上の協議を重ね、ジュリアを作り上げてきました。一方で、ASD児を描写するという試みには、大きな懸念もあったと言われています。ASD児の症状は、子供一人一人によって大きく異なるからです。ジュリアというキャラクターの描写も、あくまでASD児の一例に過ぎないというわけです。

番組は大きな反響を呼びました。「ジュリア登場に感謝！ 自閉症をみんなにとって普通のことにしてくれた。子供たちだけでなく、親も教えられます。」「自閉症がある人たちの多くは、充実した素晴らしく勇敢な人生を送っています。息子もその一人です。ありがとうジュリア！」等の投稿や、「違いを言い募るのではなく、違いを理解する。壁をつくるのではなく、向き合う。願わくはそんな心の構えでありたい。」という新聞コラムもありました。

ジュリアのマペット操作と声の演出を担当するステイシー・ゴードンさんは、ASDの息子をもつ母親です。彼女は、「ジュリアは、手をパタパタとするのが好きです。音が大きすぎると怒ります。ジュリアを見た子供たちは、学校で同じような場面に遭遇したとき、今までとは違う視点で見られるようになると思います。ASDの子供たちが、もっと受け入れられて、認められることを、私たちは望んでいます。」「ジュリアのようなキャラクターができて、他のキャラクターたちが、ジュリアに思いやりをもって接する姿を見てもらうということは、ものすごい影響を与えてくれるはずです。」と語っています。

日本ではYouTube等でジュリアと会うことができます。英語版ではありますが、ジュリア初登場のエピソードも、紹介されています。ビッグバードがジュリアに挨拶の握手を求めますが、ジュリアはお絵かきに夢中で反応を示しません。動揺するビッグバードに対して、エルモは、「ビッグバードを嫌っているのではなく、ジュリアにはジュリアなりのコミュニケーションのとり方があるんだ。」と伝えます。また、ジュリアは、サイレンの音に反応して、耳をふさぎます。そんなときも、エルモやアビーはジュリアの気持ちを理解し、ジュリアの気持ちが落ち着くまで優しく待ってあげています。そして、みんなで、「We can all be friends.」（みんな、友達になれそうだね。）と歌うのです。

ジュリア登場のコンセプトは、「インクルージョン（共生）」です。他の友達との違いを受け入れ、共生していくとはどういうことなのか、人形劇によって、楽しく分かりやすく表現されています。

光八小も、「包容」の学校です。— みんな違ってみんないい。認め合えればもっといい。